

信頼をめぐる通説に関する予備的考察

藤田 泰昌 調査科学研究センター 特任研究員

【信頼をめぐる通説】

国・社会レベルの知見として、他者一般を信頼する人々の割合が高い社会では(そうではない社会に比べて)、民主的制度がうまく機能する(Putnam 1993)、高い経済成長を実現する(Zak and Knack 2001)、人々の健康面でプラスに作用する(Kawachi et al. 2008)、といったことが示されてきた。他方、個人レベルの知見としては、階層の高い人々は他者を信頼する傾向にある(Hall 1999など)、他者一般を信頼する人々は自国の政治組織や国際組織を肯定的に捉える傾向にある(Uslaner 2002; Torgler 2008など)、といった分析結果が提示されてきた。

【個人レベルでの信頼に関する先行研究の間隙】

信頼に関する国際比較を行った先行研究の多くは、国・社会レベルでの集計データを分析対象としてきた。他方、個人レベルのデータを用いて議論を展開した先行研究の多くは、アメリカやイギリスといった限られた国を分析対象としており、アジア諸国も含めた国際比較の文脈から分析を行ったものは多くない。このため、これまで見出されてきた信頼に関する知見は、英米などに限ってあてはまるものである可能性がある(Yoshino 2002など)。そこで本研究は、他者一般に対する信頼(=社会信頼)および自国の政治組織や国際組織に対する信頼(=組織信頼)という2つの種類の信頼に関する通説から導かれる以下の2つの仮説について、個人レベルのデータを用いて考察を行う。

- ①階層が高いと、組織信頼が高い傾向にある
- ②社会信頼が高いと、組織信頼も高い傾向にある

【分析対象とする地域と質問項目】

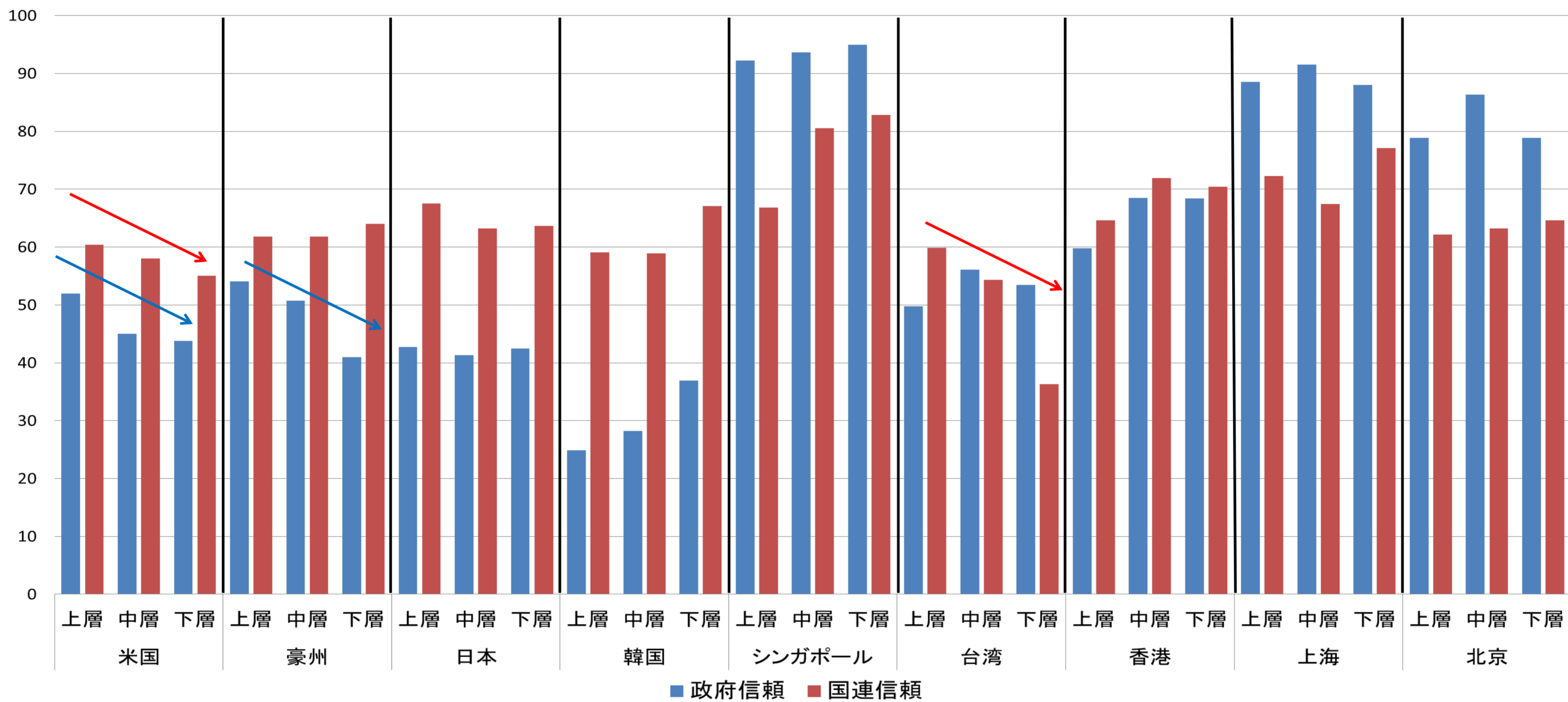
本研究では、環太平洋価値観国際比較調査(2004-2008年)(代表 吉野諒三)のデータを用いる。分析対象国・地域は、日本、中国(北京・上海・香港)、台湾、韓国、シンガポール、アメリカ、オーストラリアであり、従来集中的に分析がなされてきたアメリカとあまり分析がなされてこなかったアジア諸国の双方を含む。

また、以下のような質問項目を分析対象とする。社会信頼に関する項目(Q36「たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか」およびQ38「たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。」)、組織に対する信頼に関する項目(Q50「あなたは、次にあげる組織や制度、事がらをどの程度信頼しますか。」「国の行政」「国連」)。

【分析:予備的考察】

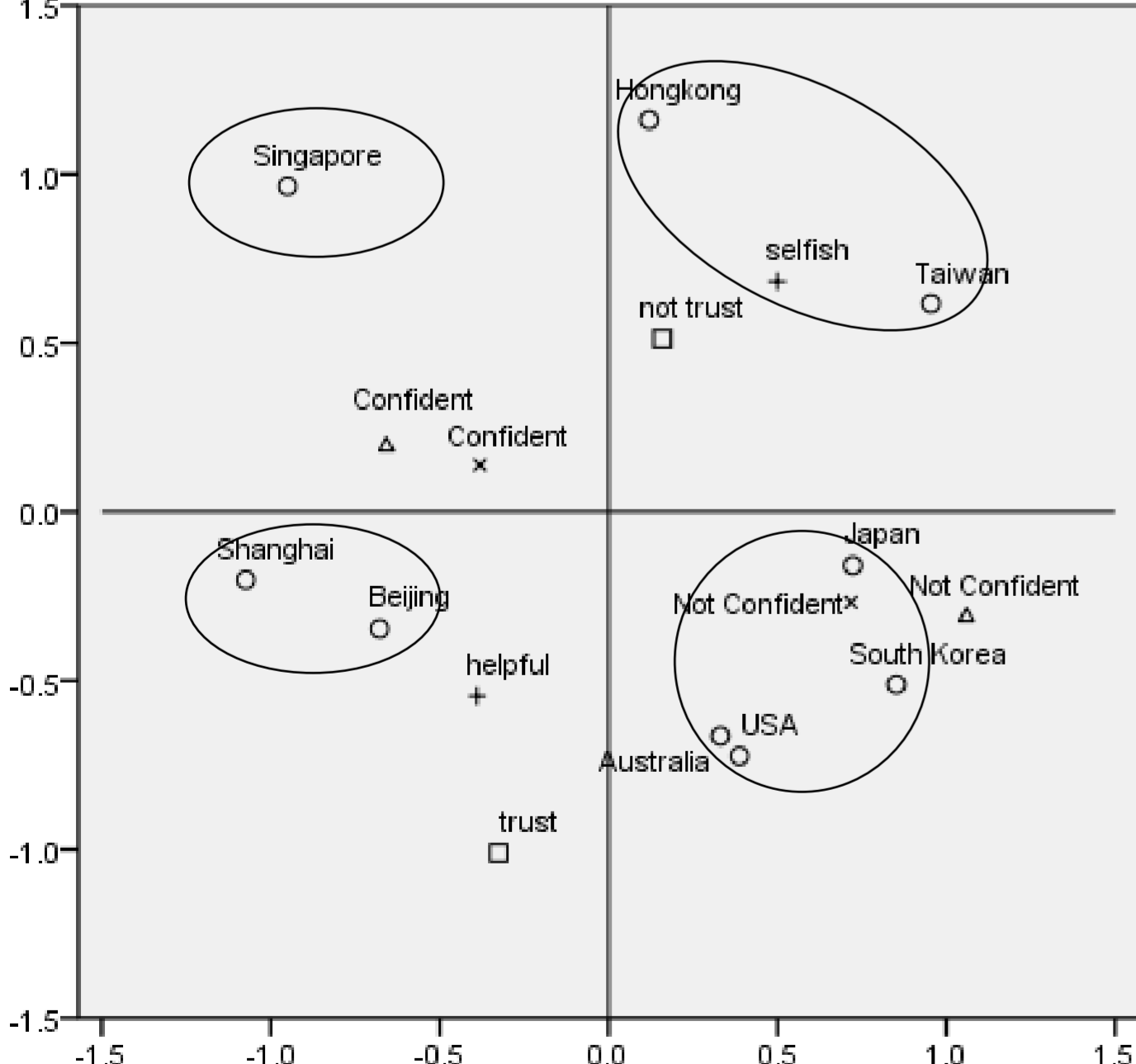
①階層が高いと、自国の政治組織や国際組織に関する組織信頼が高い傾向にあるか？

階層別での組織信頼の国際比較

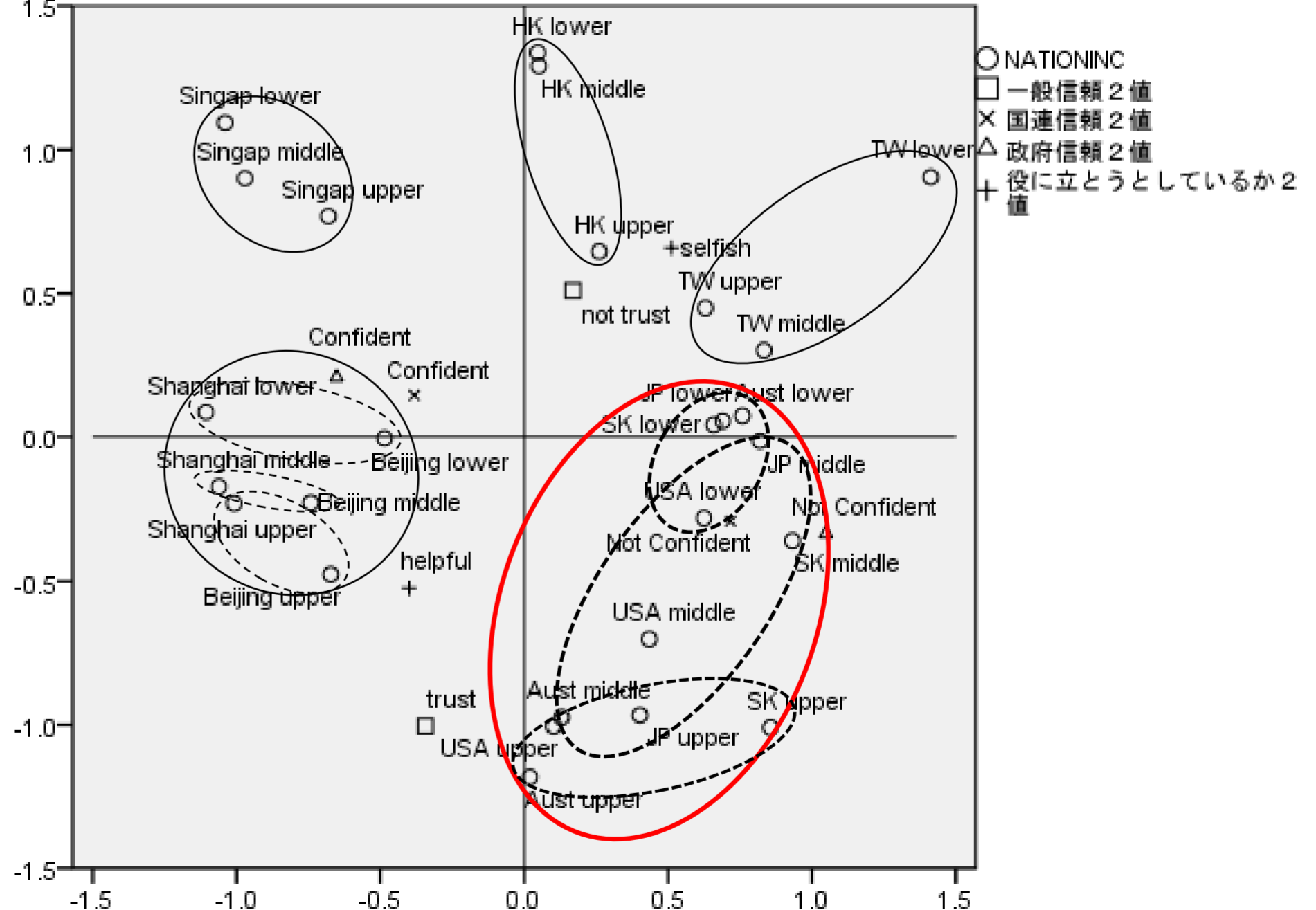


②社会信頼が高いと、自国の政治組織や国際組織に関する組織信頼も高い傾向にあるか？

社会信頼と組織信頼に関する数量化Ⅲ類による解析



社会信頼、組織信頼、階層に関する数量化Ⅲ類解析



★社会信頼と組織信頼は(アジア太平洋地域全体でも各国・地域単独でも)各々別の象限に布置される

★自国の政治組織および国際組織への信頼を同時に分析した場合、人々の価値観のあり方は4つのグループに分類される

(1)先進民主主義グループ(日、韓、米、豪):社会信頼は高いが、組織信頼は低い、(2)中華圏本土グループ(北京、上海):社会信頼も高く、組織信頼も高い

(3)中華圏本土外グループ(香港、台湾):社会信頼も低く、組織信頼も低い、(4)その他(シンガポール):社会信頼は低く、組織信頼は高い

★先進民主主義グループでは(特に社会信頼の面で)階層間の差異が大きく、国家間の差異よりも国内階層間の差異の方が大きい